

一般社団法人プラズマ・核融合学会
男女共同参画委員会 会合 議事録

日時 : 2021年11月15日(月) 10:00~12:00

会議形式: オンライン開催 (zoom)

参加者 : 米田仁紀、市口勝治、井通暁、芦川直子、田中のぞみ、筒井広明

今回の会合趣旨

例年、プラズマ・核融合学会年会の期間中にランチオンミーティングとして行われてきた本委員会だが、今回は活動の見直しの議論を主として期間外に時間を設定して開催した。

冒頭、米田委員長から下記のような内容に関する情報提供があり、その後自由討論とした。

- ・ポジティブ・アクションプラン
- ・第5次男女共同参画基本計画(令和2年度12月閣議決定)
- ・指導的地位を占める女性比率などのデータ紹介
- ・レーザー学会による女性比率向上の取り組み(比較的女性研究者が多い、光感性分野を学会に取り込むようにした)
- ・学会に求められていること、指導的地位の女性比率向上、女性に対する各種表彰の機会向上

本委員会としての取り組み

- ・学会として目立つ行動することを検討したい(独自の取り組みを明言できるように)
- ・今期委員長である米田は、少なくとも2年間委員長を引き受ける予定
- ・具体的なアクションプランの作成を進める
- ・理事、代議員、賞に対する選考委員などに女性が確実に入るような、働きかけをする
- ・「女子中高生夏の学校」への取り組みについて、本学会若手夏の学校に関与する学生さんらからの協力について打診を行う。担当理事は渡邊隆行
- ・プラ核年会・招待講演者に対して、本委員会が推薦する。領域性との関係については今後調整
- ・男女共同参画学協会連絡会への参加資格を、オブザーバーから正会員になる方向で進める
- ・アクションプランを作成した後、具体的な委員の追加を検討する

議論で上がった主な意見

- ・理事、代議員、選考委員に女性を入れる際、少なくとも複数名入っていることが好ましい(1名だと、その方の個性に依存するところが大きくなるため)
- ・本委員長、幹事が学会の理事との紐づけになっている。それを見直すことが出来ないのか(紐づけがあることで、引継ぎがなく委員長を引き受けることになる)
- ・女性比率の高い企業の取り組みに関する情報集約(継続審議)
- ・本活動に関する助成金への応募(継続審議)

長期的な検討項目

- ・全国語学教育学会の掲げる行動規範を参考にしたものを、プラ核でも検討したらどうか(例えば、ハラスメントが生じた時に異議を申し立てる場所の設立など)
- ・プラ核学会、もしくは関係者が取り扱う資料でのジェンダーバイアスへの留意(現在、男女の職業分担の先入観を与えるような図案の利用は避けるべきであるといった指針に基づき、内閣府男女共同参画局による無料イラスト素材の配布も開始された)